



倫敦たふり

内務技師

佐藤 利 恭

謹啓承り候處、故國は未曾有の大震災にて五十年來の、國民の奮闘努力を以て漸く築き上げたる我帝都は、一朝にして其大半を失ひ人畜の死傷影數數に上り、其の慘害言語に絶すに趣き、旅させられて知る親の恩の譬に洩れず、親數西洋諸國の文物を見て一層故國の繁榮を希ふの情切なる折柄、誠に國家のため遺憾至極に存候。

九月二日伯林に於て大震災に關する第一報を聞きたる以來、日々の報導は益々其の慘情を明にし、爲邦家爲同胞憂慮同情に不堪候、然れ共此の機會に於て全世界殊に英、米、佛等の國民が吾等に表せし同情は非常のものに有之、今更ながら我國の世界的地位の向上を嬉數頼も敷相覺申候と同時に日本國民は僅々五十有餘年間に於て、今日世界の三大強國と成り得たる熱心と努力と勤勉とに依て不遠より完備せる帝都を復興する事を確信すとの彼等の讚辭は、一面非常の愉快を覺えたと同時に他面吾等日本國民の非常の覺悟と奮勵とを以

て彼等の期待を裏切らざる様努力せざる可らざるを痛感仕候。諸て私は松本道路改良會幹事及茂庭内務技師と共に昨大正十二年五月上旬「スペイン」國にて開催せられたる第四回萬國道路會議に出席を被命三月一日西に向て故國を出發致し申候途次上海、香港、新架坡、彼南「コロンボ」「スエズ」「カイロ」及び「ホートセツド」等の諸都市を視察し、

四月十四日佛國「マルセイユ」市へ上陸同市へ二泊の後巴里への途次「リオン」市を見學致し四月十九日巴里市へ到着候、翌二十日萬國道路會議事務局を訪問し本會議に關し打ち合せの序を以て、茂庭氏と共に會員に加入するの機會を得申候、

當時巴里は日蔭にても攝氏八十五度の高温を示し廿年來の暑なりと喘ぐ者不尠見受け申候、涼しき夏服を着る事を知らぬ西洋の習慣に育従するを餘儀なくされた吾等も亦其の暑氣には惱され申候、斯る變調の氣温は彼の歐洲大戰の際無暗矢鱈に砲烟彈雨以て天帝を威脅したる爲め氣流に著しき變化を來したる結果ならんと都人士の申し居たるは笑止に存候、

巴里市の萬國道路會議事務局は花の巴里の建物とし且つは全世界の道路及び其の交通の進歩發達を謀る中心機關としては餘りに貧弱なるに一驚致し候然れ共此處にて吾人人類の繁

榮幸福の増進上缺く可からざる一要素たる道路の改善に關し不斷の努力を盡しつゝあるかと思へば偉大の權威自ら湧出し云ひ知れぬ嬉しさ相覺え申候。

第四回萬國道路會議の開會地たる「スペイン」國「セビリヤ」市は同國首府「マドリッド」市を距る西南約三百五十六哩同國南部二大河流の一たる「ガルデキビル」河口より五十四哩の同河畔に在り人口僅に十六七萬餘の小都市に過ぎされ共古來同市民が「ゼビリヤ」市を見ざる者は美に就て談るに「足らず」と唱えたる自慢に違はず繪畫の如き其の郊外地と共に旅行者に忘るる能はざる印象を與ふるに充分と存候、本市は恰も我京都市の如く所謂「アングダルシア」の舊都にして元是れ「ムアー」人の建設に係り街路極めて狹隘なるのみならず到る處迷路多く從て近代式都市としての價值に乏しけれ共恐らく世界に於ける最も風流なる都市たるを失はず殊に其の家屋は所謂「ムアー」式建築の特色たる「バルコニー」及び穹窿天井を有する廻廊にて繞されたる内庭を有す。「バルコニー」は總て薔薇を植へたる今や亦に紅に白に咲き亂れ、大理石にて「モサイック」に鋪裝せられたる内庭の中央には夢を私語する噴水あり其の間巧に熱帶性植物を配置せるを見る、人若し晴天の日屋前を過ぎれば茲に團樂せる家族にして頭頂

に高く曲けたる束髮に太き飾櫛を挿し刺激強き色彩にて刺繍せる「シヨール」を着流し扇使も無意識けなる西國婦人の喜々と轉る小鳥の音に恍惚たる優姿を見出ること容易なるべし、人工と自然の美の心地よき調和は恰も一幅の畫の如く之れ全く詩的趣味に富める「アングダルシアン」の血を享けたる國民に在らざれば見出し難き美觀にして物質的文明のみを事とせる歐米人には嘆稱讚美禁する能はざる様見受けられ候

閑話休題第四回萬國道路會議は五月七日「セビリヤ」市の東北端「ガルデキビル」河畔に鬱蒼と茂れる公園内の「イスパノ・アメリカン」博覽會場跡なる所謂「ムアー」式建築の壯麗なる會堂に於て現「スペイン」皇帝の從兄弟なる「ドンカルロス、ボルボ」親王の台臨を迎ぎ「セビリヤ」市大僧正及「スペイン」國農商務大臣「エス、エック」氏以下主權國の關係者は勿論世界二十九個國の政府代表委員其の數九十三名の外各國地方自治團體各國運送會社並に一時會員等無慮一千名列席の下に盛大なる開會の序幕は落され申候、之より先き「セビリヤ」市の紳士淑女たち遠來の外客を遇する爲めにや朝來會場前庭園に唱集し劇啼と鳴り響く音樂に恍惚として逍遙する様は今や花苑に美を争える薔薇の花と相照し長閑けき平和の春は更に一段の光輝を添え申候、(以下次號)